

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 御言葉に耳を傾け、心を主に向けましょう。
- *賛美 334番
- *交読文 45番
- *使徒信条 会衆一同
- *頌栄 174番
- 礼拝のための祈り 川合ゆきえ姉妹
- 賛美 336番
- メッセージ 父なる神の愛(ルカ15:11-24)
- 御言葉を適用する祈り .. 会衆一同
- 賛美 331番
- 献金感謝の祈り パスター
- 報告と歓迎
- *主の祈り 会衆一同
- *祝祷 パスター

祈祷課題

- ・この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- ・病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- ・兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- ・主に忠実で御霊に満ちた奉仕者が70名与えられるように
- ・終末の災いに実際に直面している兄弟姉妹の守りのために

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

まだ遠く離れていたのに父は_____をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。_____は父に言った、『父よ、_____は天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません』。しかし父は僕たちに言いつけた、『さあ、早く、最上の着物を出してきて_____に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しもうではないか。_____が死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから』(ルカ 15:21-24)

_____よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しい事である。「あなたの父と母とを敬え」これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、「そうすれば_____は幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。(エペソ 6:1-4)

今日は父の日である。父親は外に出て働き、あまり家にいないかもしれない。一緒に話したり交わったりという事は母に比べれば少ないかもしれないが、父は言葉には出さずとも、子の事をいつも思っている。今日は、イエス様がたとえ話の中で話された、ある父親について見て行きたい。「ある人に、ふたりのむすこがあった。ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください』。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。』(ルカ 15:11-12) 当時、財産の分け前が与えられるのは、父親が死んだ後のはずだが、この弟は父がまだ死んでいないのに、まだ相続できない時なのに、それを求め、父のほうも、まだ与えるべきでない時なのにそれを与えた。このたとえの中の父と子の関係は、ちょっと常軌を逸している。しかしこのたとえは、天の父なる神様と、私達との関係を現しており、たとえの中に見えるいびつな有様、すなわち、息子達の父親に対する冷たさや、父親の常軌を逸した「お人好し」さ加減も含め、全て、天の御父と私達との「いびつ」な関係を示している。

この弟息子は、まだ自立してはならない時なのに、自立して父のようになろうとした。それはちょうど、アダムとエバが「神のようになれる」と唆され、善悪知識の木の実を食べたのと同じである。父は、この息子に財産を「今」与えたら、必ず罪を飲み食いして放蕩し、全てを失う事を、知っていた。なのに、息子から言われるまま財産を与え、彼の自由意志に任せ、息子が出て行く時も、止めなかった。同じように、父なる神様は、アダムとエバが、善悪知識の木の実、すなわち、神のようになれるという、受けるべきでない「財産」を自分のものとしてしまう事を、止めなかった。この、「神のように自ら善悪判断する」という”財産”を、彼らが用い、罪を飲み食いし、放蕩し、やがて全てを失ってしまう事を、知りながら。

なぜ、父なる神様は、人がそのまま行けば酷い目に遭う事を知つつ、人を自らの赴くままにされたのか。それは、神様は、御自らを正確に褒めたたえるようプログラムしたロボットと共に永遠を過ごすよりも、多少不完全で不揃いでも、自ら喜んで神に聞き従い、自由意志をもって、心から進んで神に仕える、人格を持った「人」と共に永遠を生きる事を、望んでおられたからではないだろうか。父なる神は、人間の自由意志を尊重される。なぜなら神は人間を神に似たものとして造られ、自分で自由に考え、意思決定して行動する事、それこそ、人間が神の似姿である事の所以だから。**父なる神は、無表情に、心なしに、人間が為すがままに放って置かれたのだろうか？ 否！**弟息子が財産を全部持って出て行ったその日以来、父は、愛と忍耐をもって、ずっと待っていたのである。父は、息子が出て行ったその先をじっと見つめながら、早く戻ってくるのを、片時も目を離さず、待っていた。だからこそ、息子が帰って来た時、まだ遠くにいる時に見つけて、駆け寄ってきて、抱きしめたのだ。子の全てを知った上で、敢えて子の好きにさせる。そして、いつも子の事を心にかけてながらも、自らの意志で父の元に戻ってきて、心から父を愛するようになるのを、待っている。それが、父親である。

人は、父なる神の完全な保護下にあったエデンを出て行き、神のごとき善悪判断という「財産」を用いて、罪を売り買いし、罪を飲み食いし、尊い神の子としての尊厳を汚して、神から与えられた尊い「いのちの息吹」を、ただ放蕩するしかなかった。御父を離れた世で、何もかも失っても、なお父の元に戻らず、世の主(サタン)の元に身を寄せても、任される仕事といえば、何でもがさつに口に入れる「豚のエサやり」という、労だけが多い、汚れた仕事である。御父を離れているなら、豚の食べている汚れたエサさき欲しいと願うが、豚のエサは聖徒達にふさわしくないため、それは神の子達には、決して与えられない。神の子たる者が、父の元に戻らず、豚のエサを求める状態は、究極の「中途半端」であり、御父の元に戻らない限り、絶対に満たされない。御父の元を離れて、豚のエサやりをしているのであれば、断然、父の元に戻るべきであり、父が用意してくださったまことの食物、屠られた肥えた動物、すなわち、屠られたキリストを、共に食すべきである。(23節)「言っておくが、このように、一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。」(10節)御父の元を離れず、もし離れてしまったとしても、いつでも悔い改めて御父に戻り、王子としての王服(晴れ着)と権威(指輪)、歩み(くつ)を返していただき、王子としての歩みに戻る皆さんでありますように。

横浜天声キリスト教会

礼拝 週報



集会案内

日曜礼拝

1部礼拝(韓国語中国語通訳有) 10:30
 食事/フェローシップ 12:00～
 2部礼拝 14:00
 聖書の学び会(箴言) 15:00

金曜徹夜祈祷会 21:00～

日々の集会

月～金 早天祈祷会 5:00～
 火・木・金 賛美と祈りの集会 13:00～
 火～木 夜の祈祷会 19:30～

水曜集会

1部 13:00～
 2部 19:30～

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
 6番B出口を出てまっすぐ徒歩5分
 JR・関内駅より徒歩10分
 京急線・日ノ出町駅より徒歩10分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
 伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
 1Fがファミリーマートになっております。



聖書メッセージを携帯で

聖書メッセージをメールで
 毎日携帯にお届けします。
 左記コードを読み込み、
 空メールを送信するだけ！



〒231-0058

パスター: 林和也

神奈川県横浜市中区弥生町2-17 ストックタワー大通公園 I-201

TEL/FAX: 045-326-6211

Homepage: <http://voh.plala.jp/>

email: ephes_03-tensei@yahoo.co.jp



モバイルサイト